

株式会社 日本ベル投資研究所 (ベルトーケン)

2019年8月8日

代表取締役 鈴木行生

第9期 事業報告書

1. 決算期 2019年6月期 (2018年7月～2019年6月)

2. 決算内容

- ・リスクをマネージできる投資家と企業家の創発を軸に、アナリストの活動領域において、そのクオリティを上げることに重心を置いた。
- ・業績は前期を大幅に下回ったが、一定の安定した収入と利益を上げることができた。
- ・社会貢献活動を主軸にしているため、取締役報酬は取らない方針である。よって、取締役報酬および配当は無い。
- ・納税、寄付のほかは内部留保し、今後の活動資金として活用する。
- ・純資産を活用して、企業価値創造に資する中長期の株式投資運用を行っている。前期はその運用評価益が期間利益に大きく貢献したが、当期は多少の評価損となった。

3. 事業内容

- ・IR(インディペンデントリサーチ)アナリストレポートを、四半期ごとに12社について発行した。今期は1社減少したが、他の業務とのバランスを重視したことによる。
- ・投資環境レポートを四半期ごとに発行し、企業の経営環境、経営行動、株式市場に関わる変化、投資家の投資動向など、企業を見る目をいかに養うかについて具体的に検討した。
- ・英語での要請に答えて、企業レポートの英文化を3社について継続した。
- ・事業会社の企業経営、IR活動についてアドバイスした。事業会社の要請により、投資家の視点から知りたい項目について質問し、理解を深めるようにした。
- ・投資情報ポータルサイトに投資家の啓蒙に向けたコラムを継続的に執筆した。
- ・外部依頼の個人投資家向け講演会で適宜講演した。
- ・事業会社、監査法人などの依頼により、社外セミナーや社内研修の講師を担当した。統合報告、企業と投資家の対話、ガバナンスのあり方などがテーマであった。

4. 対外活動

- ・東証上場3社の独立社外役員として、事業会社の経営発展に貢献すべく活動した。株式会社システナ独立社外取締役(東証1部、情報通信システム開発)、いちご株式会社独立社外取締役(東証1部、総合不動産サービス)、株式会社エックスネット独立社外監査役

(東証1部資産運用ITサービス)で、今後とも力を入れていく。

- ・内閣府の知財ビジネスに関するタスクフォースに委員として参画した。
- ・経産省、東証主催の「攻めのIT経営銘柄」の審査委員を務めた。
- ・「統合レポート」に関するWICI表彰に当たって、審査委員を務めた。
- ・一橋大学CFO教育研究センターのワークショップで、コーディネーター(講師)を務めた。
- ・IR協議会のセミナーで、アナリストから見たIRについて話をした。
- ・IR学会のシンポジウムで、社外取締役の役割についてパネラーとして参加した。
- ・事業会社の取締役会で、投資家の求める資本コストについて話をした。
- ・日経CNBCで週1回、中小企業を分析する目を養うという観点で、当社がアナリストレポートを書いている企業をケーススタディとして取り上げ解説した。

## 5. 事業成果

- ・当社のパートナー鈴木淳美常務執行役員との連携により、アナリストレポートを継続的に発行し、当社ブランドを高めることができた。
- ・アナリストレポートの配信については、ブルームバーグ(内外金融機関向け)、アイフィス(国内機関投資家向け)、みんかぶ(個人投資家向け)、みんせつ(国内機関投資家向け)へ配信し、反応も良好である。
- ・英文レポートを継続的に発行する体制を整え発行した。

## 6. 次期の課題と対応

- ・引き続きアナリストレポートの発行と配信に力を入れるが、社数については10社程度を目途とする。他の仕事とのバランスをとるためである。
- ・レポートの内容については、当該企業の価値創造の仕組みであるビジネスモデルの解明に力を入れ、企業価値の将来予測と品質の向上に一層努める。
- ・企業の統合報告がより充実する視点で、投資に役立つアナリストレポートを書いていく。
- ・日本における個人投資家層の大幅な拡大に向けて、外部の組織と連携して、アナリストレポートの発行と啓蒙的な活動に一段と力を入れる。
- ・外部機関と連携して、事業会社と投資家の対話を促進するように啓蒙教育活動をサポートする。
- ・内部資金を活用した有価証券投資は、長期投資の視点で価値創造企業へ引き続き投資していく。なお、当社が発行するアナリストレポートの企業に投資することは行わない。
- ・株式会社ウィルズ(未上場、投資家向け情報サービス)の独立社外監査役として活動領域を広げ貢献する。